

信州エクスターンシップ2017

事業報告書



2017. 9. 2 J A 長野県総合研修所

NPO法人夢のデザイン塾
明治大学社会イノベーション・デザイン研究所
事業委託者：長野県

2017年 夏、信州エクスターンシップ。
あなたの職業観、就職観を変える1週間。

MENU

2017年手引き

実施要項

研修プログラム

募集要項

2016年成果報告

トップ

信州エクスターンシップ2017

信州エクスターンシップは、早期キャリア教育プログラムです。
学生のための経験学習プログラムです。

◆親や先生、先輩や大人から、こんなことを言われたことはありませんか。

「あなたたちは、経験が足りない」

「あなたたちは、世の中を知らない」

「あなたたちは、大人とのコミュニケーションができない」

★それなら、経験しよう、リアルなコミュニケーション経験から学習しよう。

大人の世界と本気で向かい合おう。

信州エクスターンシップは、「本気のコミュニケーション」経験学習を主題とするプログラムです。

信州エクスターンシップ公式サイト
<http://www.yume-design.or.jp/externship/>

■はじめに

信州エクスターンシップから始まる 地方創生インターンシップ。

地域経済社会の若年層人材の流出に対して、戦略的な還流政策が必要です。

長野県のみならず地域経済社会は、大学進学・就職のプロセスでの若年層世代の首都圏への流出によって、生産人口の年齢構成の若年層比率の急速な低下が進んでいます。人口減少・高齢社会化に対応するうえで、若年層世代を職業人材として、地域経済社会に還流・定着する政策の強化と開発が求められています。

従来も、おもに新卒U-ターン就職・採用を支援する施策を講じてきましたが、現在の新卒就職・採用環境の変化のもとで、新たな政策アプローチが必要になっています。

それは、首都圏・大企業主導ででき上がっている「新卒就職・採用」システム＝マスリクルーティングに対する革新であることを求められています。



■信州エクスターンシップ＝早期キャリア教育アプローチ

バブル崩壊以降の20年以上にわたる就職氷河期は、次世代の学生の職業選択や就職行動に大きな困難と変化をもたらしました。就業・就職の意識や在学中の職能的なスキルもかつてない高まりを示しています。同時に、多くの大学・教育機関が「キャリア教育」に注力し、定着させてきました。教育インターンシップの普及もその成果です。

しかしながら、この国では「在学中の就職活動・採用内定」という（世界でもまれな）きわめて不合理な社会システムの支配によって、キャリア教育プロ

セスと就職・採用プロセスが分断されています。それが、地域経済社会や中小企業セクター、あるいは医療・福祉・教育セクターの若年層人材獲得の困難の構造的な原因だと判断します。

信州エクスターンシップは、シューカツ・マスリクルーティングというプロセスの前の「キャリア教育・経験学習」にアプローチし、地域経済社会の職業を選択するポテンシャル人材を育てるという展望にたっています。



■信州エクスターンシップ＝地方創生インターンシップ

全国の地域で、若年層人材還流を主たる戦略とする地方創生の動きが始まっています。その具体的な施策として「大学生に対するエクスターンシップ＝地域滞在型インターンシップ」が広がり始めています。

長野県の「信州エクスターンシップ2016・2017」は、その先駆けと評価されています。

重要なことは、単なるイベント開催ではなく、地域経済社会が協働して、エクスターンシップ実施体制を構築し、多くの次世代学生のキャリア教育・経験学習の機会を提供し続けることです。

信州エクスターンシップ政策のカギは、以下の3点です。

- ★首都圏および地元大学との「早期キャリア教育」の連携体制を構築すること
- ★地元の産・農・学による「若年層人材戦略」の協働推進体制を構築すること
- ★長野県および県内自治体による政策基盤を構築すること



■信州エクスターンシップ2017の実施状況

学生の経験学習意欲の高まりと ポテンシャル人材の展望

2017年8月27日から9月2日の1週間、信州エクスターンシップ2017の中心のプログラムである「地域滞在型インターンシップ」の部を実施しました。

■信州エクスターンシップ2017で確認できたこと

信州エクスターンシップの目的はなにか。二つあります。

第一に、大学生（および若年層）の「職業選択の閉塞」を打開するための早期キャリア教育プログラム【地域滞在型インターンシップ】を、地域経済社会の主力セクター（企業部門・農業部門と自治体）が協働して、その教育空間と場を提供すること。

第二に、大学・教育機関のキャリア教育プロセスと地域経済社会の連携協働関係を構築し、職業教育・職業開発による地域経済社会への人材還流を促すこと。

この政策目的に対して、信州エクスターンシップの2年間の成果は次のようにまとめることができます。

1. 教育アプローチによる若年層人材開発という試みは、十分に手応えのある戦略であると確認できました。
2. 地域経済社会の側に協働的な「キャリア教育アプローチ」の意欲が高まってきていることを確認できました。
3. エクスターンシップ＝地域滞在型インターンシップという事業モデルの発展性を確認することができました。

■参加する学生の意欲の高まり

信州エクスターンシップ2017には、首都圏から32名、長野県から4名の学生が参加しました。

共通する参加動機・理由があるとなれば、ほとんど未知の「地域経済社会の働き方」を見聞し、リアルにコミュニケーション学習することで、一般化している大企業を目指すシューカツに対する疑問や閉塞感を確かめてみようという「意欲」です。

昨年にも増して、ハードルの高い教育プログラムにもかかわらず、またハードワークにもかかわらず、参加学生は1週間のエクスターンシップ＝地域滞在型インターンシップを見事に修了しました。

参加学生の満足度、参加前・参加後の意識の変化を見ると、次世代の新しい「職業意欲」は、十分に内在していることを確かめることができます。

少なくとも、次世代人材を「大都市・大企業という枠組のなかでのシューカツ」という先入観から解放するためには、早期キャリア教育の段階で、強力な「教育アプローチ」を仕掛け、その内在的な職業欲求を触発することが有効であることを確認しました。

また、連携大学との協力関係も拡大し、参加大学からのプログラムの評価も高まり、信州エクスターンシップの単位科目化、共通科目化も進行しています。

■地域協働型「エクスターンシップ実施」体制の拡充

昨年、信州エクスターンシップ2016を契機として設立された産・農・学協働組織の「長野県若年層人材研究会」は、信州エクスターンシップ2017に対して、大幅に拡充されました。

地域滞在型インターンシップは、学生を教育的に入れる企業・団体の「次世代教育力」が不可欠です。

度重なる研修会などにより、地域経済社会の側に協働的な「キャリア教育アプローチ」の意欲が高まってきていることを実感しています。

また最終日の「成果発表会」には、参加学生を上回る数の地元企業・JA関係者の出席がありました。

■信州エクスターンシップ2017

主 催 者	長野県
実 施 拠 点	◆研修宿泊施設：J A長野県総合研修所
参加大学・参加学生	<p>連携協力10大学から、36名の学生が参加し、修了しました。</p> <p>◆信州エクスターンシップ2017参加大学（参加学生数）</p> <p>【首都圏8大学】（32名）</p> <p>青山学院大学（5名）、亜細亜大学（3名）、成蹊大学（1名）、拓殖大学（4名）、千葉工業大学（1名）、中央大学（8名）、東洋大学（3名）、明治大学（7名）</p> <p>【長野県2大学】（参加申込5名ただし修了者4名）</p> <p>信州大学（3名）、清泉女学院大学（2名）、</p> <p>*首都圏・長野でのべ10回のガイダンスを実施、10大学から事前教育を受講した37名のうち、36名が参加、全員がプログラムを修了しました。</p>
受 入 企 業 団 体	<p>◆学生訪問受入先：長野県若年層人材戦略研究会の会員の18企業・団体</p> <p>①長野地域の企業15社（15コース）</p> <p>②J A長野グループ（4コース）</p> <p>③長野県・長野市（3コース）</p> <p>◆参加企業には「受け入れ研修」を三次にわたり実施しました。</p>
プログラム内容	<p>事前教育・事後教育を含む信州エクスターンシップ2017プログラムを実施しました。</p> <p>■教育プログラムの日数：のべ12日</p> <p>*信州エクスターンシップ「実施プログラム」参照</p>
学生参加費の徴収	◆参加学生（36名）から受講料として、首都圏大学学生@2万円、長野県内大学学生@1万円を受領しました。
事 務 局	NPO法人 夢のデザイン塾 (東京) 明治大学社会イノベーション・デザイン研究所
協力会社・団体	<p>長野県若年層人材戦略研究会</p> <p>J A長野中央会</p> <p>J A共済総合研究所</p> <p>株式会社ワークス・ジャパン</p>

■早期教育アプローチ

地域滞在型インターンシップと

「本気のコミュニケーション」の結合効果

2017年、早期キャリア教育としての信州エクスターンシップの教育プログラムは、大幅に改善整備することができました。

2016年度は実質的に、長野での「地域滞在型インターンシップ」中心の教育プログラムでしたが、2017年度は本格的な事前教育プログラム・事後教育プログラムを設定しました。

また、「地域滞在型インターンシップ」も、企業・団体への訪問インタビュー中心のプログラムに加え、共通プログラム（講義・ワークショップ）を拡充しました。



■信州エクスターンシップ＝コミュニケーション経験学習プログラム

エクスターンシップ＝地域滞在型インターンシップは、教育インターンシップの1カテゴリーです。

「インターンシップ」は本来、若年層世代が社会人・職業人として、スタートし自立していくプロセスで、経済社会が提供すべき「経験学習」の機会です。社会全体の若年層人材育成戦略の共通の基盤と位置付けられます。

早期キャリア教育の基本は、「社会人・職業人としてのコミュニケーション」です。それは、教室や学内での授業や学習で習得することは難しく、実際に大人の社会人との真剣なコミュニケーション経験による学習だけが教育効果を実現することができます。

信州エクスターンシップ2016・2017は、その主題を『本気のコミュニケーション』において、設計しています。

■信州エクスターンシップ＝地域滞在型インターンシップ・プログラム

参加学生はお互いが初対面のチームで、1週間のグループワークを行います。のべ4日間、2カ所の訪問先での「本気のインタビュー」、毎晩のグループワーク「本気のフィードバック」、そして最終日の成果報告会での「本気のプレゼンテーション」という濃密なプログラムは、同質コミュニケーションに慣れ

た学生にとっては、未経験の非日常・異質コミュニケーション空間での経験学習を実現しています。

信州エクスターンシップは、早期キャリア教育における「学外学習」「実践的なコミュニケーション経験学習」の求められる条件を満たしています。

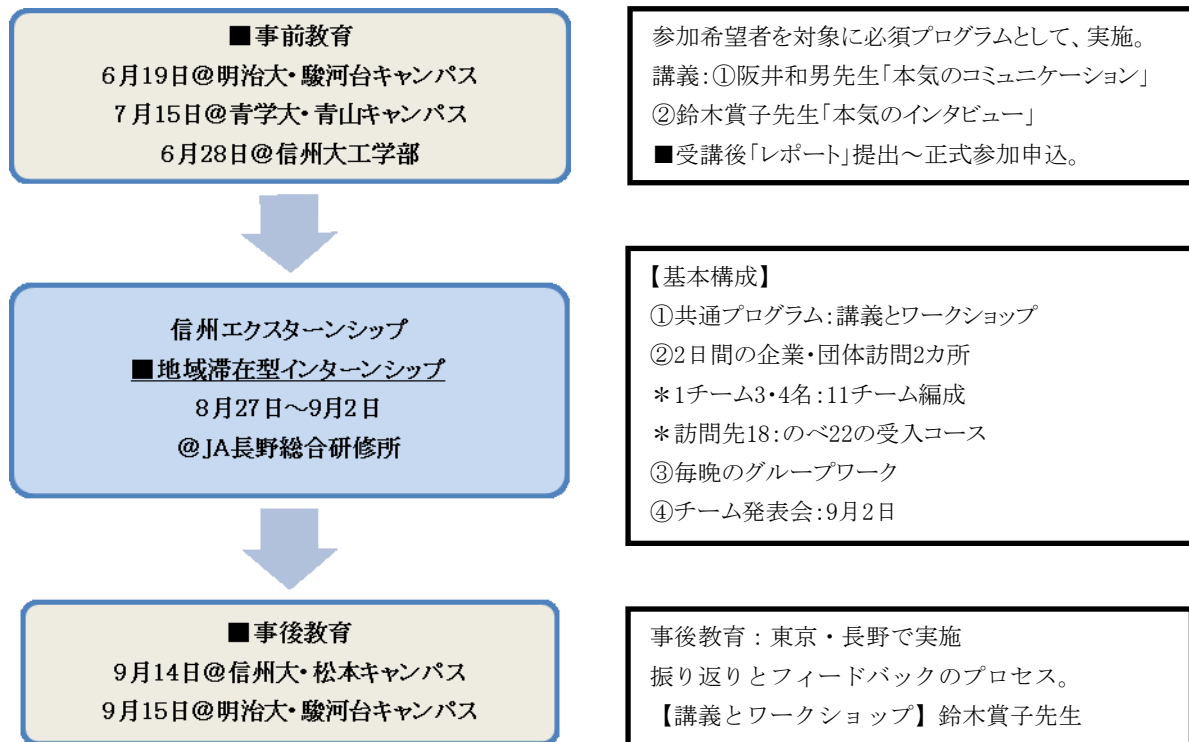
■信州エクスターンシップ＝単位科目化、共通科目化

全国の有効大学で、「学外学習科目の拡充」「インターンシップの単位科目化」の動きが進んでいます。信州エクスターンシップ2017はすでに、3大学で正式な単位科目に認定され、先進事例となっています。教育プログラムとして単位要件を満たす完成度の高さ、実施体制の確実性が評価されています。

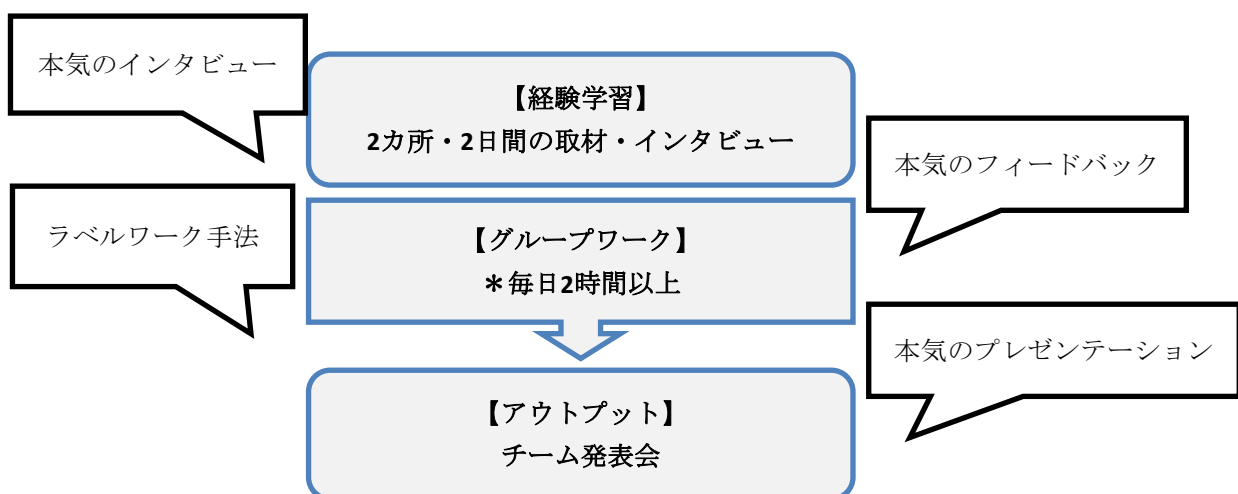
明治大学はじめ、参加大学のキャリア教育部門、キャリア・センターとのプログラム開発協働やガイダンス、事前教育の学内実施などの成果によるものです。

この成果は、地域経済社会と首都圏および地元大学部門との人材還流パイプラインの構築へと繋いでいくことが展望できます。

■信州エクスターンシップ：三つのステップ



■信州エクスターンシップ：本気のコミュニケーション



■地方発の若年層人材戦略へ

2年間の活動による協働組織の拡充と 地方創生の基盤づくり

信州エクスターンシップ2017の学生の訪問・インタビューを受入れ、2日間にわたる「本気のインタビュー」に向かい合った企業・団体数は18となりました。昨年の10企業・団体から大幅な増加となり、学生の訪問コース（2日間）は、のべ22コース設定することができました。

信州エクスターンシップの主力プログラム「2カ所・2日間インターンシップ」は、参加学生の経験学習に十分なインプットを提供することができました。



■長野県若年層人材戦略研究会の拡充と参加拡大

2016年の信州エクスターンシップの「学生の受け入れ」協力をテーマとして、地元の産・農・自治体・大学による任意団体・長野県若年層人材戦略研究会（長野県後援）は、スタートしました。昨年の経験と成果を踏まえ、2017年は、会員企業・団体数も拡大しました。

研究会では、参加企業・団体向けの受入研修を6月、7月に三次にわたり実施し、エクスターンシップ教

育の趣旨の共有、各社の受入れ体制の強化、受入プログラムの準備を整えることができました。

最終日の成果発表会、フェアウェル・パーティには、参加学生の訪問先企業・団体はほとんどすべてが出席され、学生11チームの成果発表を見ていただき、学生の学習効果と1週間の成長を確認する場となりました。

■信州エクスターンシップ参加企業・団体の効果とはなにか

一般に若年層人材戦略におけるインターンシップ効果は、就業・就職予定の学生または就業経験の乏しい若年層人材に対する「セルフスクリーニング&マッチング効果」や「ワクチン効果（リアリティ・ショックの軽減）が指摘されますが、もう一つの大きな意義は、一定期間の若年層人材とのコミュニケーションによって、受け入れ企業・団体の社員・

職員の若年層人材とのコミュニケーション経験による「内部教育力」強化と更新効果が高まることです。

今後の若年層人材の還流を推進していくうえで、地域として協働的な「若年層人材教育力」を高めることは、最大の基盤づくりになるはずで

■エクスターンシップから若年層人材戦略への取り組みの協働組織へ

若年層人材戦略とは、採用・育成・定着のプロセスの戦略統合を指しますが、大都市・大企業との競争環境の厳しさに対抗して、地域経済社会は独自に、新しい戦略プロセスを開発、構築することが求められます。いわゆるマスリクルーティング手法ではなく、教育アプローチによるターゲット・リクルーティング手法への転換が有力な方法です。

それには、1社ごとの努力と同時に、地域経済社会が協働して取り組むことが、求められます。

信州エクスターンシップは、2年間の活動を通して、地域としての協働的な若年層人材戦略「地方創生インターンシップ」への展望を開きつつあります。

■信州エクスターンシップ2017参加企業・団体の一覧表

団体・企業名	事業内容
株式会社アソビズム	ゲームの企画・開発・販売スマートフォン・携帯サイトの企画・開発・運営アソビコンサルティング業務
アピックヤマダ株式会社	半導体製造装置金型総合メーカー
エムケー精工株式会社	オート機器・情報機器・生活機器の製造販売及び輸出入
オリオン機械株式会社	冷熱と真空をコア技術として、各種産業を支えるORIONブランド機器の開発・製造・販売
カシヨ株式会社	印刷事業(商業、出版、帳票、印刷物管理・発送代行等)、Web関連事業(コンテンツ制作・CMS、データベース構築、電子書籍制作)、人材事業(人材紹介、派遣、採用支援等)
株式会社サンメディックス	子育て情報誌・イベント・地域ポータルサイト企画運営などの地域密着型メディア企業
須高ケーブルテレビ株式会社	テレビ・インターネット・電話などサービス事業を展開するケーブルテレビ局
大日本法令印刷株式会社	法規書籍・一般書籍等の製版・印刷・製本、デジタルメディア等のコンテンツ制作
株式会社高見澤	建設資材販売、石油製品販売、土木建築工事、食品等加工販売など
株式会社竹内製作所	各種建設機械の設計開発から販売までの完成品メーカー
東京法令出版株式会社	各種法規書、単行本、教科書、学習参考書等の出版、販売
長野県農業協同組合中央会	JA長野県グループのトータルプランナー
株式会社博善社	冠婚葬祭業
不二越機械工業株式会社	電子材料加工装置設計・開発・製造
富士通株式会社長野支社	ICT分野において、各種サービスを提供するとともに、これらを支えるプロダクトおよび電子デバイスの開発、製造、販売から保守運用までを総合的に提供する、トータルソリューションビジネス
株式会社本久ホールディングス	土木・建設工事の設計・施工、道路舗装材料の製造・販売、温浴施設・ホテル・旅館・介護施設の運営

■若年層人材環境の変化

大学は、キャリア教育プログラムを求めています

学生は、シューカツに代わる「選択」を求め始めています

信州エクスターンシップ2017は、早期キャリア教育にアプローチする方針を、一段と徹底しました。

第一に、参加大学は現在のキャリア教育の課題を解決する意思と方針のある大学に限定して、連携と協力をお願いしました。とりわけ、エクスターンシップ＝地域滞在型インターンシップの教育効果への注目と期待は、急速に高まっています。

第二に、参加学生の募集は、彼ら・彼女らにとってほとんど未知の「地域経済社会の働き方」を見聞し、リアルにコミュニケーション学習することで、一般化しているシューカツに対する疑問や閉塞感を確かめてみようという「意欲」に照準を置きました。



■参加大学との連携・協力関係の強化の報告

「早期キャリア教育」としての信州エクスターンシップ・プログラムの趣旨に賛同いただける大学からの参加者募集を重視し、各大学でのガイダンス開催、教職員による個別学生に対する参加の勧奨、実質的な学内予備選抜の実施など、特定の大学(学部)と募集段階からの協力をお願いしました。

その結果、首都圏大学では、新規に亜細亜大学、東洋大学、成蹊大学の参加が得られました。また、今年度から長野県の大学からの参加を提案し、信州大学、清泉女学院大学からの参加が得られました。

参加大学においては、信州エクスターンシップを単位科目化(もしくは単位科目の一部とする)する動きや参加学生の受講料を補助する動きも進んでいます。

学外学習型の教育プログラムの導入は、多くの大学で今後も進むと想定されます。「信州エクスターンシップ」は、間違いなく、その先行プログラムとしての地位を築くことができています。

■ポテンシャル学生募集プロセスの報告

各大学での信州エクスターンシップのガイダンスによるプロモーション、また、希望者全員に対する事前教育の実施とレポート提出による実質的な選考により、参加申込者の「目的意識」の醸成に努めました。

ガイダンスに出席し、趣旨とプログラムの厳しさを理解したうえでのプレエントリー登録者(参加希望者)は82名に達しました。

そのうえで、事前教育の受講およびレポート提出を最終申込の必須要件としました。

きわめて高いハードルの設定により、事前教育受講

者および参加申込者は、非常に職業意識・意識ポテンシャルの高い学生を揃えることができました。その数は37名でした。

当然ながら、教育効果の実現は「双方向」です。すくなくとも、信州エクスターンシップ2017参加学生と受け入れ企業・団体との間で、「ミスマッチ」はきわめて少ないという結果は明らかです。

いくつかの補強策も実施しました。募集活動(エントリー受付)から事前教育以降の応募者管理、予備学習の促進、情報提供のために、専用のホームページを開発しました。また、個人情報管理のために、DB管理システムを導入し、運営しました。



■信州エクスターンシップ2017応募・参加学生/修了者の属性集計

■所属大学

大学	女性	男性	総計
青山学院大学	3	2	5
亜細亜大学	3	0	3
信州大学	3	0	3
成蹊大学	1	0	1
清泉女学院大学	1	0	1
拓殖大学	2	2	4
千葉工業大学	0	1	1
中央大学	7	1	8
東洋大学	1	2	3
明治大学	4	3	7
総計	25	11	36

■出身地区分

出身	女性	男性	総計
首都圏	14	5	19
長野	3	2	5
山梨	1	0	1
茨城	0	1	1
栃木	1	0	1
新潟	1	0	1
愛知	1	0	1
静岡	0	1	1
大阪	0	1	1
海外	4	1	5
総計	25	11	36

*首都圏：東京・神奈川・埼玉・千葉

■文系・理系区分

学年	女性	男性	総計
3年生	4	4	8
2年生	21	5	26
1年生	0	2	2
総計	25	11	36

■学年・性別

文理	女性	男性	総計
文系	24	9	33
理系	1	2	3
総計	25	11	36

■信州エクスターンシップのビジョン 「地方創生インターンシップ」イニシアティブへ

地域経済社会の若年層人材の急激な減少を食い止め、回復を目指すための人材還流政策の開発が求められていることはいうまでもありません。

2013年以降、大学進学時および大卒就職時に毎年8万人～10万人規模の若年層人材が首都圏に流出しています。長野県では、毎年5千人規模が県外に転出増となっています。その割合は、25%を超えています。

■「若年層人材市場」の構造について

3年来の新卒採用の急回復は、大都市への集中、大企業および関連企業への集中を一段と進め、地域経済社会および中小企業の新卒採用はかつてない困難な状況となっています。

その背景には、「失われた20年」と「就職氷河期」に定着した大企業主導のマスリクルーティング手法の支配と「シューカツ」という就職活動の画一化が

あります。より根本的には、日本特有の在学中就職・採用内定という社会システムの存在があります。

この構造を打開しない限り、2018年以降、一段と加速する18歳人口の減少のもとで、地域経済社会の若年層人材の確保は、年を追って困難さを増していくことは、確実です。

■独自の若年層人材還流パイプラインの開発へ

旧来型のマスリクルーティングの方法で、この構造を打開することは、きわめて困難です。

信州エクスターンシップは、大都市・大企業主導のマスリクルーティングによる集中構造を、キャリア教育アプローチとインターンシップによって、独自の若年層人材還流のパイプラインを構築するというビジョンに立っています。

インターンシップは、本来、若年層人材戦略（採用・育成・定着）において、マスリクルーティング手法の限界や弊害や克服する手法として、世界的にも定着しています。ある意味では、マスリクルーティングへの正統的な対抗方法です。キャリア教育の目的は、本来、次世代の自律的な職業選択の意思と能力を育て、経済社会への職業的な参加を支援することです。

■ポテンシャル人材の存在の確認と確保へ

就職活動前の大学生に対して、早期キャリア教育プログラムとして「地域滞在型インターンシップ」を提供する信州エクスターンシップは、2年間の活動を通じて、成果と手ごたえを確認できました。

①就職活動前の学生のキャリア学習意欲、経験学習への挑戦意欲の高さは、首都圏・長野県を問わず、存在していること。それは、既存の大都市・大企業の提供している「就社」ゴールのシューカツへの懷疑や失望を背景としていること。

②「地域滞在型インターンシップ」方式は、参加学生の既成の地域社会観や職業観を大きく変化させ、職業選択、働き方の選択を触発する効果がある

こと。それは、宣伝広告やWebリクルーティングでは実現できない「ポテンシャル人材」マーケティング効果があること。

地域経済社会の若年層人材戦略の推進には、「ポテンシャル人材」の質を教育アプローチによって確保する「エントリー装置」を設定することが第一です。

そして、信州エクスターンシップを複数の地域に拡大することで、「長野県の新卒採用はエクスターンシップから始まる」という独自のスタンスを学生や大学に示し続けることが重要です。

■地方創生インターンシップ「若年層人材戦略」の構築へ

ポテンシャル人材のエントリー装置を設定しただけでは、もちろん、量的な人材還流には不十分です。さらには、信州エクスターンシップ修了学生の「信州での就職や働きかた」期待には応えられないと思います。

有力な方法としたいのは、独自の「信州インターンシップ採用システム」の協働的な開発です。

ここでは、大都市・大企業にはできない「育てて採用する、学んで就職する」という本来のインターンシップ採用を提起すべきだろうと考えています。

大都市・大企業のマスリクルーティングとは決定的に異なる地方創生インターンシップへ。

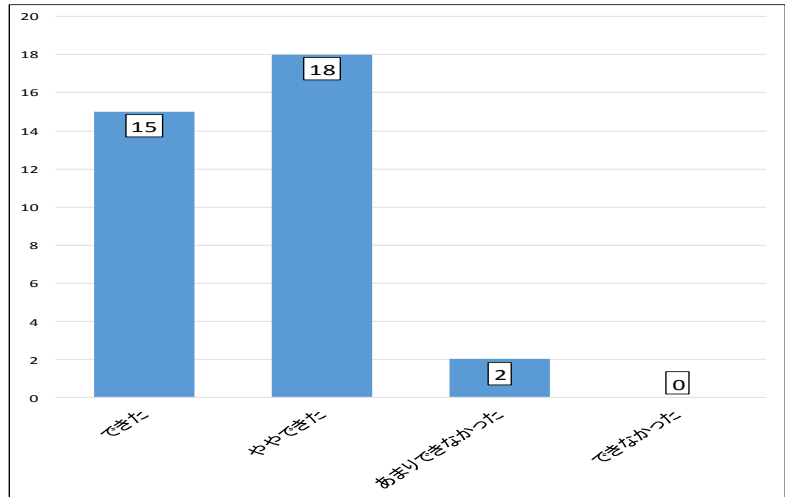
それが、次の開発課題です。

■信州エクスターンシップ2017参加学生はどう変わったか

信越放送株式会社（SBC）は、信州エクスターンシップの取材の中で、参加学生に対するアンケート調査を実施されました。以下のような結果が得られました。

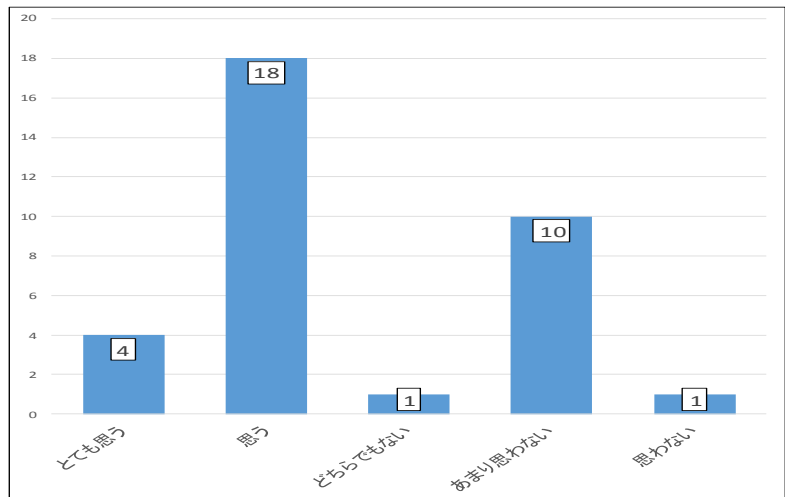
■信州の魅力を感じる事ができたか

できた	42.9%
ややできた	51.4%
あまりできなかった	5.7%
できなかった	0.0%



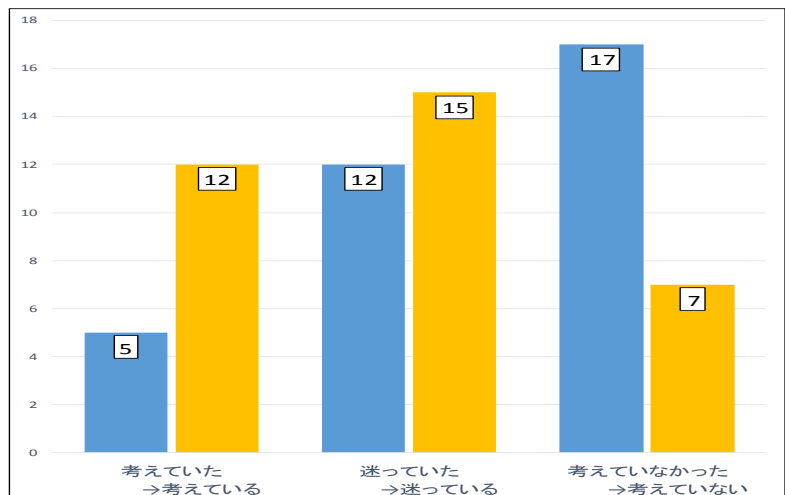
■信州で働きたいと思ったか

とても思う	11.8%
思う	52.9%
どちらでもない	2.9%
あまり思わない	29.4%
思わない	2.9%



■Uターン・Iターン就職についてどう考えていたか →現在はどうか

考えていた →考えている	14.7%	35.3%
迷っていた →迷っている	35.3%	44.1%
考えていなかった →考えていない	50.0%	20.6%



最終日のプレゼンテーション：11チームがそれぞれ、熱意ある成果発表をやりとげました



発行日：2017年11月1日

発行者：NPO法人夢のデザイン塾

〒380-0871 長野県長野市西長野2-4 カシヨ情報ビル2F
TEL. 026-231-5440 FAX. 026-231-5444

明治大学社会イノベーション・デザイン研究所

〒168-8555 東京都杉並区永福1-9-1
明治大学和泉キャンパス 研究棟213号
TEL03-5300-1282

事業委託者：長野県

〒380-8570 長野県長野市大字南長野字幅下692-2
長野県産業労働部労働雇用課
TEL. 026-232-0111 (代表)